中井町教育委員会だより第227号(R8･1月号)

わかくさ

謹賀新年

教育課　　☎81－3906
生涯学習課☎81－3907

※太陽の公園(中井メガソーラー発電所内)

みんなで希望を！

中井町教育委員会教育長
加藤　彰吾

新年、明けましておめでとうございます。

令和八年の扉が開かれました。今年はどんな年になるのか希望と希望が渦を巻きます。希望と希望…？希望には二つの意味があります。一つは、ある事柄が実現することを望む気持ちやその内容のこと。もう一つは、未来に対する明るい見通しや期待を意味することです。

さて、今年の中井の教育への希望はどうでしょうか。今年は、中井の未来に向けた新しい事業が四月から始まります。中学校の部活動を地域クラブに段階的に展開していきます。また、少子化等の関係から、学校のあり方について検討を始めます。さらには、生涯学習施設の建設が動き出します。新たな事業を含め、これからの中井の教育を示す「なかい教育ビジョン」も策定中です。

今年も、一つ一つ希望をかなえながら、中井の未来の教育が明るくなるように取り組んでいきたいと思います。もちろん、皆さんと一緒につながりながら…。

一年間、よろしくお願いいたします。

みんなで希望を！

子どもが企画し、子どもが説明し、子どもたちみんなが「できた！」と思える取組を！

①井ノ口小学校～井ノ口フェスタ2025　11/19（水）

場所:中井中央公園

井ノ口小学校では、中井中央公園を会場に青空の下、6年生の計画委員が中心になって「井ノ口フェスタ2025」を開催しました。運動広場いっぱいに8種目の「スポーツ」が展開され子どもたちは笑顔であふれていました。

各種目のリーダーが説明！

地域の方に教えていただいた「たこ揚げ」

▼計画委員の6年生に、ここまでの取組について聞いてみました。

・昨年の6年生の活躍を見て、自分たちも全校のみんなが楽しめるような井ノ口フェスタを自分たちで創りたいと思い準備をがんばった。

・1年生から6年生までが楽しめるようにするためにはどんな種目が良いか全校にアンケートをとった。

・事前説明会の時には、ネット検索をしたりして1年生にもわかりやすくなるように動画をみせた。

・新しく「スポーツ鬼ごっこ」と「全校版鬼ごっこ・逃走中」を企画した。

●2026年をどんな年にしたいですか

全校をまとめる力をもっとつけて、卒業したい！

6年生として「できた！」という達成感を感じながら、笑顔でインタビューに答えてくれました。

②中村小学校～BigつながるDAY　11/19（水）場所:中村小学校内各教室

中村小学校では、「脱出ゲームと学校の七不思議」というテーマでした。6年生が考えたストーリーは、

ある日神の祠を壊してしまったことで、学校全体が呪われてしまう。呪いを解くために7つの教室に分かれてクイズに挑戦する。そこには、6年生がいて、参加グループが勝つとカードをもらえる。最後に体育館でそのカードを集めて答え合わせをすると‥‥。

なんと、校歌になりました。エンディングではみんなで校歌を歌いました。

▼ナレーターをしていた6年生に聞いてみました。

・ストーリーを考えるのに大変だった。1年生に楽しんでほしい。大成功してほしいなあ。

・学校の七不思議を「こっくりさん」「トイレの花子」「本読みシスターズ」「動くベートーベン」「口さけ女」「二宮金次郎像」「人体模型」の7つとした。動画などは、YouTubeを見て参考にして作った。

・七不思議は、担当した6年生がそれぞれの内容を考え、電子黒板に問題を映し出すようにした。

・苦労したのはセリフを考えて出し合い、覚えたこと

●2026年をどんな年にしたいですか

・目標をつくり、それに向かって取り組みたい！

「人体模型」のポーズ

▼このコーナーのルールは、電子黒板にうつったポーズと同じ形ができれば、カードがもらえる
⇒みんな笑顔！

集めたカードで何という言葉ができるかを話し合う

あ・あ・中・村・小・学・校の7文字だった！

井ノ口小学校は広い運動公園で活動し、中村小学校は学校の中を探検しました。活動の場所は違いましたが、どちらの学校でも6年生が中心となり、先生のサポートを受けながら自分たちで計画し、説明をして、みんなが楽しく参加できました。この活動を通して、子どもたちはコミュニケーション力を身につけたり、他の学年の友だちと交流したりして、多くの学びができたことと思います。今年も、教育委員会や園・学校では、子どもたちが自分の願いや希望を持ち、それを自分たちでかなえられるような教育活動を大切にしていきます。

中井町人権講演会「ヤングケアラーが抱える葛藤」
～「ありのまま」に寄り添うために～　講師　高岡里衣氏　12/6改善C

ヤングケアラーとは、家族の介護や日常生活の世話を過度に担っていると見なされる子ども・若者のことです。家族のケアや介護の手伝いは思いやりや責任感、生活力を育てますが、年齢にそぐわない過度なケア負担を長く背負い続けると、健康や友人関係、就職など将来の生活にも大きな影響が出てしまいます。

高岡さんは、9歳のころから母親の介護をしていたヤングケアラーの経験をもとに、「寄り添うこと」の大切さを語りました。心がつらい時のアドバイスは、できていない自分を責めてしまい、さらに苦しくなることがあります。アドバイスよりも大切なのは、寄り添って話を聞くことです。そして、継続的な声かけが信頼関係につながることなど、心に響く講話を聴くことができました。

● 1月定例教育委員会…1月21日(水)9:30～農村環境改善センター2F研修室 ●
どなたでも傍聴できます。 連絡先 ☎81-3906